

エイズとの闘いを考えるとき



2024年11月29日 ピーター・サンズ (グローバルファンド事務局長)

20年前、エイズの終息はほぼ不可能な夢のように思われました。世界中のコミュニティが猛威にさらされ、多くの生命が奪われ、社会が大打撃を受けました。しかしそれから私たちは長く遠い道を歩み続け、予防・治療・認知いずれも飛躍的に向上しました。HIV新規報告数はこの10年間で**38%減少**し、**2023年**の新規報告数は**1980年代後半**以来で過去最低となりました。これはもちろん喜ばしいことではありますが、終わりではありません。今こそエイズとの闘いを考えるべきときなのです。

「公衆衛生上の脅威であるエイズの**2030年**までの終息」は、持続可能な開発目標**3 (SDG 3)**のターゲットのひとつです。これは実際に可能であり、すでに手が届くところまで来ています。今こそ努力を強化し、残された問題に取り組み、効果的な対策をスケールアップしていくときなのです。

エイズとの闘いにおける前進は目覚ましいものではありませんが、細かく見ると、国や地域によって進捗度合いにばらつきがあり、何よりもその進歩が脆弱であることが分かります。これまでの進歩にもかかわらず、依然として多くの人々が病に苦しみ、亡くなっています。昨年だけで**63万人**がエイズ関連の原因で亡くなりました。子どもも命を落としたり、親を亡くしています。エイズによって今でももたらされている広く大きな苦しみは、決して許されるものではありません。

足かせとなっている要因は複数あります。エイズ対応について現状で良しとする傾向が高まっており、多くの国において政治的・財政的なコミットメントにおける揺

らぎや、保健システムの脆弱さが見受けられます。それらは、紛争、気候変動、負債によって更に悪化することがあります。また、薬剤耐性(AMR)の高まりや、小児 HIV 感染症の対応における大きな格差もあります。人権・ジェンダー平等問題の世界的な後退に、エイズとの闘いにおいて最も手ごわい敵である不平等、スティグマ、差別が伴っていることで、人々は感染に対してより脆弱になると同時に、保健サービスへのアクセスを妨げられています。

解決策はあります。新規 HIV 感染や、個々のエイズ関連死を防ぐ知識とツールもあります。人権が目標達成のために絶対に必要であること、また革新的なツールや方法が変革を加速していけることも分かっています。

現在、エイズ予防ツールについてエキサイティングな局面を迎えています。ダピピリン膈リングは、HIV 感染を減らすゲームチェンジャーとなる可能性を秘めています。女性自らが管理できる初の効果的なエイズ予防手段であり、経口 PrEP に代わる選択肢という大きな利点を持ち、女性に予防手段を選択する権限と裁量を与えます。同様に有望なのが、長期作用型注射薬のレナカパビルなどの革新的な製品で、新規 HIV 感染の低減効果が一段階上がる可能性があります。

しかし、こうした革新的な方法や製品も、誰もがどこにいても入手できるようになるまでは十分とは言えません。そのためには、手頃な価格にして、感染率の高いコミュニティや地域への配布をスケールアップするとともに、効果的なエイズ関連サービスを阻む構造的な障壁を打破していく必要があります。

これらのツールへの公平なアクセスを推進するための重要なステップのひとつが、保健システムが負担できるレベルにまで医療製品のコストを引き下げることです。こうした取り組みは一般的に市場形成と呼ばれており、この努力により、HIV の第一選択薬の年間コストは、20 年間で 1 万米ドル近くから 37 米ドルまで下がりました。革新的なアプローチは、HIV 感染リスクの最も高い人々(ゲイ、男性間性交渉者、セックスワーカー、性転換者や多様なセクシュアリティの持ち主、注射による麻薬使用者、服役囚など)や、若い女性や少女といった脆弱な集団に、必要なツール支援サービスを届けるためにも重要です。

同時に、グローバルなエイズ対策が、HIV の影響を受けている人々や、その支えとなっている医療従事者、ピア・エデュケーター、コミュニティのメンバーが経験している不平等にも対処したものであることも必須です。これは、コミュニティ・ヘルスワーカーやピア・エデュケーターの労働に対して報酬を支払い、人々をスティグマ、差別、暴力、犯罪から守るということを意味します。また、エイズの影響を受けている人々が自らの人権を行使するための知識やスキルを身に着けること、医療従事者や法執行当局が HIV に対して脆弱な人々へ効果的な支援サービスを提供できるようトレーニングを受けることも重要です。

どんな競走でも、ゴールが見えるとラストスパートに入ります。エイズとの闘いもそこまで来ています。持てる力を振り絞らなくてはなりません。エイズ対応における格差を埋め、「公衆衛生上の脅威であるエイズの終息」という **SDG3** のターゲットを実現するまで、あと **5** 年です。イノベーションに人権重視型の疾病対応が伴えば、勝利の方程式が完成します。これは最良のツールの大規模展開を加速し、必要としている場所へ届けるための障壁を排除していくということです。[国連合同エイズ計画\(UNAIDS\) 2024 年報告書](#)の総括メッセージにあるように、私も世界エイズデーに寄せて、エイズ対策に携わるすべての方々に正しい道を進むよう、呼びかけたいと思います。その道は正しいだけでなく、**2030** 年までに公衆衛生上の脅威であるエイズを終息させるための、ただ一つの道なのです。

この論説は、もともと [Forbes](#) に掲載されたものです。